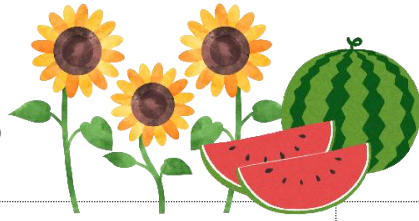


守谷ボランティア NEWS

2023年8月号 (毎月1日発行)



<発行> 守谷市民活動支援センター
〒302-0119 守谷市御所ヶ丘5丁目25番1
守谷市市民交流プラザ2階
電話: 0297-46-3370 FAX: 0297-46-3320
Email: moriyaborantia1@themis.ocn.ne.jp
ホームページURL: https://moriya-cac.org/
開館時間: 午前10時～午後6時 (午後9時まで延長可)
休館日: 月曜日、年末年始

守谷市聴覚障がい者協会 橋本一郎氏講演会 「手話を学んだ聴者として感じた事」

- 日時 8月20日(日)9:30～12:00(9:00開場)
- 会場 市民交流プラザ 市民ギャラリー
- 講師 橋本一郎氏
(亜細亜大学 経営学部経営学科 特任准教授)
- 定員 先着70人
- 参加費 500円
- 申込方法 8月15日(火)までに専用申込フォームから申し込む
- 主催・問合せ先 守谷市聴覚障がい者協会
✉ mhrm5117@icloud.com



申込フォーム▶

市民活動団体の皆さん、 缶バッチマシーンをお貸しします！

- 団体のロゴマークをバッジにしてみませんか。
無料で貸出します。
興味ある団体さんはセンターまで気軽にお問い合わせください。
<作ってみたい団体さん>
・3個プレゼント: ロゴマークデザインのデータをご持参ください。
●問合せ先 市民活動支援センター



夏休みの課題「こども新聞を作ろう」作品募集

「こども新聞」は今年度で12回目を迎えます。昨年度は194点の作品が集まりました。

聞いたこと、調べたことを記事にまとめて新聞を作ってみよう！

- 対象 市内小学4年～6年生 ●申込期限 9月1日(金)
- 提出方法 1人1作品
※個人情報保護の関係で表面に氏名を入れしないでください。市民活動支援センターのホームページで紹介している過去の作品を参考にしてください。
- ①紙: 画用紙四ツ切サイズ
裏面に、学校名・学年・組・氏名(ふりがな)を書いて、夏休み終了後、学校に提出
(守谷市立以外の小学生は市民活動支援センター窓口に提出)
- ②データ: A3サイズ以内
PDFファイルに変換したデータを、市民活動支援センターにメール(タイトルに「こども新聞」、本文に学校名・学年・組・氏名(ふりがな)を入力して提出)
- 主催・問合せ先 市民活動支援センター ✉ moriyaborantia1@themis.ocn.ne.jp



センターメール

登録団体活動情報 8月

各団体の活動予定は変更になる場合があります。事前に各問合せ先にご確認ください。

団体名	場所	活動日	問合せ先
手話サークルふれあい 手話の学習・交流	中央図書館・中央公民館	毎週金曜日(第5金曜日は休み) 10:00～12:00	川畑 090-6500-0266
守谷駅前クリーンズ 守谷駅前ゴミ拾い	守谷駅西口広場(階段下集合)	第3(日) 8:00～9:00	会田 090-3335-7227
立沢里山の会 里山整備	立沢里山	第3(土) 9:00～12:00	市民活動支援センター

助成金情報 *内容は変更になる場合があります。各HPをご確認ください。	
医療福祉	～8/12 一般助成 公益財団法人洲崎福祉財団 https://swf.or.jp/
社会教育	～8/17 令和5年度第二次助成事業助成金 公益財団法人いばらき文化振興財団 https://icf4717.jp/
社会教育	～9/8 第17回「未来を強くする子育てプロジェクト」 住友生命 https://www.sumitomolife.co.jp/

豆コラ 庭園シリーズ③

室町時代の武士の住居を「書院造」といいます。書院造は、襖や障子などの仕切りが発達し、畳を敷き詰めた部屋が特徴です。玄関も設置されました。寝殿造は庭で儀式を行っていたのに対して、書院造になると部屋の中にと変わりました。庭は、書院の着座位置から庭景を鑑賞する目的で構成。植栽は開けた舞良戸を額縁にとらえ一枚の絵として鑑賞。手水鉢の横には鉢うけの木として松野透かし技術を用いられました。また、禅の思想に基づき、水を使わず石や砂で自然を表現した閑静な「枯山水」も書院造ならではのものです。

初心者講座～植物と暮らす健康ライフ～

2023年4月15日(土曜)・5月6日(土曜)・5月20日(土曜) 10時30分～12時00分 @市民活動支援センター

市民活動支援センターでは、「植物と暮らす健康ライフ」初心者講座を開催。

全3回の講座は、前半に講義、後半は実践という形で行われました。

土曜日の開催であったため20代～70代と幅広い世代の方が参加してくれました。



講師は、当センターの高橋真美センター長。

「緑の癒し効果」や「緑のまちづくり」などの研究をされていたそうです。“緑は人に対してどういった効果があるのか”の研究結果など、クイズを交えながらの講義は、驚きや衝撃を受けた方が多かったようです。

初回の講義では、3～4人のグループに分かれて自己紹介を兼ねた話し合いの場が設けられました。だいぶ緊張がほぐれ、和気あいあいとした雰囲気、その後の実践も最後まで和やかな様子のまま無事終了となりました。



【講座の内容】

■多肉植物の寄せ植え

☆癒しポイント…「植物に触れる」
花を育てたり飾ったりする日常から、「触覚」を介して日常の癒し効果があります。



- ・水やりの頻度は、「2週間おき」を目安にする
 - ・ぷにぷにしているか触って確かめる
(痩せていたら水分不足)
- ※『葉の健康状態』を確認することが大切

■テラリウム作り

☆植物は環境に順応する力を持っている。育て方ではなく育ち方を知ることが大事！
植物がなくなったら人間は生きていけないのです。



「置き場」

室内の直射日光の当たらない明るい場所

「水やり」

・蓋があるビンには3～4か月後

■ルームスプレー・入浴剤作り

☆フィトンチッドとは、植物が出す気体の成分のこと。フィトンチッドの効果を人間が利用しています。

- 例えば…
- ・自律神経の安定を促す
 - ・空気の浄化
 - ・食品への防腐・殺菌 etc.



アロマセラピーの定義

植物の香りを楽しみ、豊かな生活のために活用すること

- ・ルームスプレー
消費期間は2～3週間
- ・入浴剤
ミルクパウダーを用いて保湿効果と疲労回復が期待できる

アンケートでは、「前半に講義があり、これから実践することがわかった。時間も説明も適切であった」「植物を生活に取り入れる大切さを改めて感じました」などの回答結果が得られました。

今後も、楽しく、元気になる講座を計画していきますので、皆様のご参加をお待ちしています。

<守谷市民活動支援センター>